

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101869		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン時津		
所在地	西彼杵郡時津町野田郷757-1		
自己評価作成日	令和3年9月10日	外部評価結果確定日	令和4年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvoscoCd=4271101869-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様と職員が互いに協力し合い洗濯物干し、取り込み、たたみ、調理補助等、自発的に日課とされている入居者様もいるため、一方的に支援をするのではなく、互いに協力できる関係を作るよう努めています。
・入居者様が安全に生活出来るよう感染予防を徹底しています。
・職員研修や、オンライン研修等に参加出来る環境を作り知識や技術の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は、意識づけとその時の状況にあった内容を重視しているため毎年、全職員で見直しを行っている。毎回申し送りの時に唱和を行うことでケアに反映できる環境となっている。母体である清水病院との医療連携が取れるため、万が一の時にも即対応ができ、入居者様と家族にとって安心して支援を受けることができることと、法人内で最期まで安心して過ごすことができる。
備蓄食品や必要な備品等、自然災害の事前準備や対応マニュアルの作成など整備がされ、災害時にも対応できる環境となっていることが確認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング時に法人・事業所理念を唱和し、理念の理解と共有を図り、入居者様が笑顔で生活できる施設サービスに努めています	理念は、意識づけとその時の状況にあった内容を重視しているため毎年、全職員で検討・見直しを行っている。理念は各フロアに掲示し、毎日申し送りの時に唱和を行うことで意識を高めケアに反映できる環境となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域行事(花壇の手入れ・運動会)等に入居者様と参加していたが、コロナウイルス感染予防のため参加出来ていない。地域との交流は難しい状況ですが近所の方から花をいただいたりと温かい支援を変わらず頂戴しています	コロナ過で地域との直接の交流が難し状況であるが、自治会への加入やこども110番の家など地域とのつながりを意識して活動を引き続き行っていることが確認できた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様はコロナウイルス感染予防にて外出自粛。職員も同理由にて外部の方との接触を控えているため、地域貢献は全く出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行わず書類の提出のみで対応。事業報告に加えて入居者様の活動の報告、行事の様子などを報告しています。職員とは取り組みについて意見交換を行いサービスの向上に努めている	事前に各フロアから代表者が参加するフロア会議にて議題をあげ、決定事項を書面に記載、主に地域包括支援センターや高齢者支援課等の自治体へ報告を行っている。詳細は、入居者様の状況や写真での様子、リスクマネジメント委員会、身体拘束及び虐待防止委員会、衛生管理委員会のそれぞれの活動内容などの	ご家族にも運営推進会議の報告を提供できるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の担当と密に連絡を取り合うことはないが必要に応じ連絡・相談し施設運営をサポートしていただくと同時に関係構築に努めている	ホーム長が窓口となり連絡、相談を行いそれに対して役場の方も親切丁寧に対応いただける関係構築ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人が身体拘束の意味を理解し、直接的な拘束のみでなく、スピーチロックなど言葉による拘束も決して行わないよう委員会を中心に活動し、全職員の意識統一を図り、ケアに取り組んでいる	身体拘束虐待防止委員会が主催し各フロアごとに少人数で動画等を利用し勉強会を開催している。定期的に勉強会を行うことでケアを見直す良い機会となりより良いケアへと反映していることが確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待についての勉強会を行い、絶対に虐待を行わないと職員全員が心掛けて業務に努め、職員のストレス軽減にも重きを置いています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、左記について学習する研修会への参加は出来ていないです		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には後に理解の相違が無いよう努め、利用者様及びご家族様の不安や疑問点も解決出来るように話し合いを行います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置も現状は活用困難。ご家族からの意見収集は施設へ直接が大半。頂いた意見は迅速に対応するように努めている。ご家族からの意見を外部者に情報公開することは現状出来ていない。	ご家族からの意見は、ホーム長・主任から申し送りの時に職員へ周知を行い、ケアに取り込む流れとなっている。ほかにも職員間でやり取りを行う回覧板も利用し書面でも周知を徹底している。入居者様からは日常の会話から聞き取りを行い申し送り等で全職員で周知、ケアへつなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務的な部分に関しては、定期的に会議の場を設け 職員が意見や提案を言える機会を設けているが、運営的な意見を聞く場というには特に定めていません。	入居者様の会話の中から気になったことを月に一度行うフロア会議で議案をあげ、それをもとにケアへとつなげるシステム作りができている。小規模な案件であれば常に相談できる環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に3回能力開発面談を行い、職員が理事長・管理者・社労士と個別で話す機会を設けている。 職員が設定した目標に対し、目標達成に向けての方法を確認、やりがい(目標)をもって勤務できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に参加する際は勤務調整等のサポートを行っている。外部の多種におけるオンライン研修に参加する機会を設け、職員育成に務めている。研修参加への言葉かけも積極的におこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ加入し、同業者と交流する機会を作り、ネットワーク作りを進めサービスの向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人との面談を実施。ご本人からの要望に対し、可能な限り対応出来る方法を迅速に返答し、入居生活に対する不安要素を少なくすると共にご本人との信頼関係構築にも努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご要望は可能な範囲で取り入れるように努めている。又、ご家族が面会に来られた際には積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係の構築にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の残存能力の活用とご家族の経済的な負担等も考慮しつつ、最低限必要なサービスの見極めは行っている。ご本人とご家族両方のご希望に柔軟に可能な限り対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の身体能力や日々のコンディションや気分的なものを考慮し、ご協力をお願いしている。洗濯物畳みやフロアのモップ掛けなどを職員と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告と一緒にご家族の考えを聴取する機会にしている。支援の変更を検討したい場合はご家族に協力を依頼、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常生活や会話の中に、ご本人が大切にされている人や場所を取り入れるようにし、馴染みの関係の継続を支援しています。	ご家族からは、入居時の説明の時に聞き取りを行い、入居後はご家族との面談や電話、メールで聞き取りをし、支援に取り組んでいる。取り組みとして直近ではホーム内でイベントを行い親しみある食べものを取り入れたり、共有スペースの環境を利用したりと支援に務めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の関係を把握し、自然に利用者同士が関わり合える雰囲気作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他所へ移動の際のご相談に対応したり、退所後も気軽に訪ねて頂けるようにし、必要に応じて相談や支援等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや希望に添える様に努め、関わりの中で気づきを得ながら、ご家族に相談し検討する。	介護度の軽い入居者は意思表示ができる場合もあり、要望があれば対応しているが、日によって入居者の状態が違うため、職員が注意して観察することで要望などの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活中で、生活歴や好き嫌いなどを聞き出し、収集した情報はカルテ・会議等を通し職員に把握してもらい、日々の支援にも活かしてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の残存能力を活かせるような支援を行いつつ、日々の体調等にも気を配り、無理なく生活していただけるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	得意な事、好んでされる事を暮らしの中から情報を得て、ご本人、ご家族、関係者の意見も取り入れながら、現状に即した介護計画を作成している。	入居時に作成した介護計画は3か月で見直しし、会議で職員の意見を取り入れている。家族からの意見・要望は現在の状態が維持できるようにというものが多く、リハビリが必要な場合はホームの方から提案をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の作成のための情報共有し、継続的なケアを提供するため、状態の変化等については日々のミーティングにて報告を行い、全ユニットで周知できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のご希望にはできる範囲で柔軟に対応していきたいと考えていますが、職員数の問題などもあり、すべての要望に対応することが現状困難である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は自治会主催のイベントに参加していたが現在参加できなくなっています。そのため、地域のイベントに参加できない分ホームにて季節に合わせたレクリエーションを行い、楽しんでいただけるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際には協力病院の対応、関係について説明。また、他病院の受診はご本人とご家族の希望を取り入れつつ適切な医療を受けられるように支援しています。	運営法人の病院から月2回の往診がある他、専門医を受診する場合は近隣の病院で受診できる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護師の巡回に加え、ご本人の状態の変化を逐一、協力病院に報告・相談し、迅速かつ適切な対応ができるよう指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の状態を随時協力病院に報告することによって協力病院との関係作りに努めています。また、入院している利用者様の状態確認を行い早期に退院できる状態であるか相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針については入居の際の書類にも明記し、主治医・ご家族・職員を交えての病状説明等を行い、どのように進めていくのかを本人様とご家族の意向を最大限汲みながら検討を行うようにしています。	終末期については看取りを行っていないことを入居時に説明している。長期入院や口から食事が取れなくなった場合は系列の病院や施設に相談し、適切なケアのできる場所へ移るよう主治医から説明することになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命の講習を受けて、非常の際に備えています。AEDも常に使用できる位置に設置している。緊急時は協力病院があるので直ちに指示を仰いだり、迅速に搬送ができるよう意識をもって業務に務める指導をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に消防署立ち合いの訓練を行い、非常時の対応についてのスキルを身に付けさせている。他にも、スプリンクラー・通報設備の点検や、燃えやすい物がないか施設周辺の環境整備も不定期におこなっている。	火災、地震、水害に対応した訓練を定期的実施している。夜間想定訓練も実施し、全職員が対応できるよう備えている。防災計画については、系列のグループホームで統一したものを作成して消防署に提出する予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人格に配慮した声掛けを行うよう指導を継続的に行い、居室入室時のノックなど基本的なマナーについても教育を行っている。	居室の入り口は入居者の希望にそって開けておくこともあるが、基本的には閉めておき、入室時には声をかけている。本人だけに伝えられることは耳元で小声で話すなど、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いやご希望を表したり、自己決定できるように働き掛け、ゆっくりと時間をかけて利用者のご希望を引き出し支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には利用者のご希望を優先に考え、入浴日や診察日などは事前にお伝えし、利用者の意見を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でその日着る洋服を選んでいただいたり、毎朝の整容・整髪のお手伝い等支援している。毎月1回、希望された利用者への訪問美容院によるヘアカットも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員一緒に野菜の皮むき等も出来る範囲で願っている。食事の後片付けも出来る範囲で手伝って頂いている。	ごますりや大根おろしなど自発的に手伝ってくれる入居者もあり、職員と協力して食事の準備ができています。おやつにたこ焼きや焼き芋などイベント的なメニューを取り入れ、食事を楽しめるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	小細目な水分補給ができるよう、言葉掛け・介助を行い居室にも常に飲料水を常備している。 食事量は毎日記録に残し、低下がみられた場合には補食なども提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの言葉掛けを行い、ご自分でできない場合には職員が対応している。入れ歯は夜間に洗浄し翌朝渡している。また、定期的に歯科の訪問診療を受け、口腔内の清潔にも努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、その方にあつた時間に誘導を行うようにし、自立した排泄ができるよう支援している。	職員はトイレへの誘導時間や使用したものを記録して各入居者のパターンを把握し、適切な声掛けを実施している。夜間はナースコールや鈴で介助の必要を把握するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に重点を置き、朝食後には牛乳やヤクルトなど乳製品を提供しています。また、協力病院とこまめに連絡を取り、下剤の調整も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	入浴日に入浴されなかった利用者には別日に対応させていただいています。 一般的な浴槽への入水が困難な利用者に対しても機械浴を利用し入浴サービスをご提供している	入居者の好みのシャンプーなどがあれば持ち込んでもらい、入浴の時間や順番についての要望があれば可能な限り対応し、気持ちよく入浴ができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう夜間の睡眠には配慮し、体調や生活習慣合わせ日中でも休息の時間を設けている。居室の空調や照明等もゆっくり休んでいただけるよう職員が調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更・追加があった場合には必ず処方箋に目を通して、利用者の現在の病状と必要なお薬の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な方には日常生活の中でお手伝いをお願いしたり、毎日ラジオ体操を行い残存機能の維持も図っている。新聞購読や将棋など趣味も継続で来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は近隣への散歩等、気分転換のための外出を行っていたが、コロナ感染拡大にて感染防止を図るため、近隣への外出も自粛している。感染拡大終息後は以前同様に外出支援をおこなう。	現在は外出を自粛しているため、週に2回のリハビリが日常的な外出の機会となっている。遠方へのドライブなどができない分、ペランダでの焼き芋など小規模なイベントで戸外にでられるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はご家族管理としている。利用者が現金所持を希望される場合は、少額で対応させていただいている。金銭を所持されている利用者にはご希望に応じて外出時に買物の支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて事務所の電話を使用させていただき、ご家族とやりとりをさせていただいています。正月には年賀状を書き、ご家族様へ近況報告しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにフロア内に装飾を行っている。また、温度や湿度などはこまめに調整し過ごしやすい環境を提供出来るよう心がけている。	入居者にははできるだけ共用空間ですごしてもらおうようにしているため、掃除を徹底し、死角ができないよう安全にも配慮している。共用空間はソファや畳スペースを配置して心地よく過ごせるような場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではソファとテレビを配置。それぞれ好みの場所で過ごせるようにしている。食事の席については概ね固定している。性格の不一致にも配慮し、座席は検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の家具やコップなどは、ご自宅から馴染みのものを持参していただいている。その他ご希望があれば使用する物を確認し使用の可否を判断している。	安全に配慮しつつ仏壇やタンスなど好みの家具を持ち込んでもらい、なじみのものに囲まれた部屋になるよう配慮している。居室にはトイレが備え付けられているが、毎日清掃されて清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で出来る事は出来る範囲内で行って頂き、自立した生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101869		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン時津 (2ユニットめ)		
所在地	西彼杵郡時津町野田郷757-1		
自己評価作成日	令和3年9月8日	外部評価結果確定日	令和4年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・入居者様と職員互いに協力し合え洗濯物干し、取り込み、たたみ、調理補助等その方が自発的に日課とされている入居者様も居られ、一方的に支援をするのではなく、互いに協力できる関係を作るよう努めています。</p> <p>・感染予防対策を実施し、サービスの提供を継続出来るように感染予防を徹底しています。</p> <p>・職員研修や、オンライン研修等に参加出来る環境を作り知識や技術の向上に努めています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4271101869-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年10月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念である「職員同士支え合い・入居者」と共に笑い合える毎日を」各フロアー・事務室に掲示し常に意識して業務にあたるよう促している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域行事(花壇の手入れ・運動会)等に利用者と参加していたが、コロナウイルス感染予防のため参加出来ていない。地域との交流は難しい状況ですが近所の方から花をいただいたり温かい支援を変わらず頂戴している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者はコロナウイルス感染予防にて外出自粛。職員も同理由にて外部の方との接触を控えているため、地域貢献は全く出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行わず書類の提出のみで対応。事業報告に加えて入居者様の活動の報告、行事の様子などを報告しています。職員とは取り組みについて意見交換を行いサービスの向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の担当と密に連絡を取り合うことはないが必要に応じ連絡・相談し施設運営をサポートしていただくと同時に関係構築に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	令和3年6月、身体拘束・虐待についての研修を開催しています。また、スピーチロックについて予防と改善に身体拘束及び虐待防止委員会を中心として特に力を入れて取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束及び虐待委員会を中心に実際に「不適切なケア」などの情報があれば検証し速やかに職員へ注意喚起をおこなっている。また全職員を対象とした勉強会を年2回行い、学習の機会を設けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、左記について学習する研修会への参加は出来ていないです		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には後にご理解に相違が無いよう丁寧な説明をおこなうよう意識をしている。利用者及びご家族の不安や疑問点も解決出来るように話し合いを行います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置も現状は活用困難。ご家族からの意見収集は施設へ直接が大半。頂いた意見は迅速に対応するように努めている。ご家族からの意見を外部者に情報公開することは現状出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務的な部分に関しては、定期的に会議の場を設け 職員が意見や提案を言える機会を設けているが、運営的な意見を聞く場というには特に定めていません。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に3回能力開発面談を行い、職員が理事長・管理者・社労士と個別で話す機会を設けている。職員が設定した目標に対し、目標達成に向けての方法を確認、やりがい(目標)をもって勤務できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に参加する際は勤務調整等のサポートを行っている。外部の多種におけるオンライン研修に参加する機会を設け、職員育成に務めている。研修参加への言葉かけも積極的におこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ加入し、同業者と交流する機会を作り、ネットワーク作りを進めサービスの向上に取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不安の訴えや、要望がある際は傾聴しています。内容に応じて利用者様の安心できる返答を行い、迅速に対応し信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族来訪した際、利用者の状況や、ホーム内でのイベントに参加された事など詳しく話、安心して頂ける様に努めている。ご家族から要望があれば、他職員にも伝え要望に沿うケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の残存能力の活用とご家族の経済的な負担等も考慮しつつ、最低限必要なサービスの見極めは行っている。利用者にご家族両方のご希望に柔軟に可能な限り対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の日々の心身の状態を考慮しつつ、洗濯や調理、掃除などを協力し共に支え合い、相互の関係を築いていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者のご家族の絆を大切に、その絆を共に支えられるよう、ご家族とも密に情報を共有しながら役割を果たしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の思い出話を傾聴したり、利用者の様子を撮り、ご家族に送信したり、ご家族以外でも大切にされてきた馴染みの関係を絶やさないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	優しい言葉かけと、レクリエーション、定期的なイベントを行い、利用者様同士のコミュニケーションが取れるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまでの関係を大切にしながら必要に応じて利用者と家族が相談しやすい環境づくりを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を考慮し、出来る限り希望に沿った暮らしが出来るよう心掛けている。意思表示が困難の方は、ケアマネージャーや複数の職員で検討し良い環境で生活が出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方や生活歴・環境やサービス利用の経過などを把握し、利用者の今後の生活に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を把握するために、日常の様子観察や個人記録、申し送りなどから情報を得るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の生活での課題等を職員、家族、関係者の意見を元に話し合い、ご本人にとってより良い生活が送れるよう最善な介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の心身の状況や変化や、ケアプランに沿ったケアの実践・結果を記録、状態の変化や定時薬、塗布薬の変更などを日々のミーティングで報告。全職員での情報共有に努め、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族のご要望にはできる範囲で柔軟に対応していきたいと考えているが、職員数の問題もあり必ずしも対応できるというわけではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は自治会主催のイベントに参加していたが現在参加できなくなっています。そのため、地域のイベントに参加できない分ホームにて季節に合わせたレクリエーションを行い、楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際には協力病院の対応、関係について説明。また、他病院の受診は利用者のご家族の希望を取り入れつつ適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護師の巡回に加え、利用者の状態の変化を逐一、協力病院に報告・相談し、迅速かつ適切な対応ができるよう指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態を随時協力病院に報告することによって協力病院との関係作りに努めています。また、入院している利用者の状態確認を行い早期に退院できる状態であるか相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針は、入居時の重要事項で説明。重度化した場合は早い段階でご家族を交えて病状説明を行い、今後の方向性を検討している。事業所として出来る範囲の支援に務めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、協力病院に指示を仰ぎ迅速に対応している。緊急時の応急手当、初期対応の実践的な訓練は実施出来ていないが、知識を得るための勉強会はおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に消防署立ち合いの訓練を行い、非常時の対応についてのスキルを身に付けさせている。他にも、スプリンクラー・通報設備の点検や、燃えやすい物がないか施設周辺の環境整備も不定期におこなっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性を尊重し、優しい言葉掛けを実施している。また、プライバシーの保護には十分に注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のご希望については時間をかけ傾聴し、言葉の意味をくみ取るよう努めている。ご本人が話しやすよう職員一人一人言葉かけを行い自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のご要望にすぐに対応することが難しい場合は後程時間を作り、その人のご希望に沿って対応している。コロナ禍の今、全てのご希望に対応すること困難。施設内でできることは極力ご希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者がその日に着る洋服を選んでいたり、毎朝の整容、整髪を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存能力を見極め、その人にできる範囲で調理のお手伝いをお願いしている。感染症対策に留意して利用者と一緒にいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分に水分補給できるように言葉掛け、介助を行っている。また、入居者様が食事を取りやすいように栄養士や看護師に相談して、一人一人にあった食事を提供できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。また仕上げが必要な利用者は職員が介助を行っている。また定期的に歯科の訪問診療を受けてもらい、口腔内の清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄能力、排泄パターンを把握し適時、言葉掛けや誘導を行っています。出来る行為は利用者にしていただき、一連の動作が困難な方は介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や、ラジオ体操や利用者の体に負担にならない範囲で運動の参加を呼びかけを行っている。その他、排便が困難な方は病院との連携を取りながら下剤等の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	共同生活の場でもあり、利用者のご希望に必ずしも添えない部分はありますが可能な範囲でご希望の時間で入浴サービス対応に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならぬ様体調に合わせて休息をとっていただくよう努めている。また、季節や利用者の体調に合わせて空調の調整も心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬の説明書を読むよう周知している。内服薬、塗布薬ともに変更や追加があった場合には、利用者に異変がないか気を配り、少しでも気になる事があれば報告するよう周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を生かし、生活の中で役割が持てるよう支援している。希望される嗜好品は可能な限り提供しするよう務めている。また利用者にあつたレクリエーション行い気分転換になるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は近隣への散歩等、気分転換のための外出を行っていたが、コロナ感染拡大にて感染防止を図るため、近隣への外出も自粛している。感染拡大終息後は以前同様に外出支援をおこなう。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はご家族管理としている。利用者が現金所持を希望される場合は、少額で対応させていただいている。金銭を所持されている利用者にはご希望に応じて外出時に買物の支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて携帯電話を使用させていただいている。その他、施設の電話を利用しご家族とコミュニケーションを図っていただいている。ご希望があれば手紙を書きいただき、郵送する支援もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に快適に過ごしていただけるよう、衛生委員会を中心に定期的に清掃をおこなっている。また、季節ごとにフロア内に飾りを付け季節感を味わっていただいている。その他、居室以外の所でも居心地良く生活できるよう、支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは、ソファを設置し各々好きな箇所で自由に過ごしていただけるように配慮している。食事の際等の席も何か問題がある場合はその都度検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使用していた馴染みの物(食器類、布団など)を持ちこんでいただき、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常の家事(洗濯物、モップがけ、調理補助)やレクリエーションを通し、利用者(個別)の「できること」「わかること」を見出し、可能なことは実践してもらい、自立支援に役立っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101869		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン時津(3ユニットめ)		
所在地	西彼杵郡時津町野田郷757-1		
自己評価作成日	令和3年8月25日	評価結果確定日	令和4年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyosvoCd=4271101869-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和3年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・入居者様と職員互いに協力し合え洗濯物干し、取り込み、たたみ、調理補助等その方が自発的に日課とされている入居者様も居られ、一方的に支援をするのではなく、互いに協力できる関係を作るよう努めています。</p> <p>・感染予防対策を実施し、サービスの提供を継続出来るように感染予防を徹底しています。</p> <p>・職員研修や、オンライン研修等に参加出来る環境を作り知識や技術の向上に努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念である「職員同士支え合い・入居者と共に笑い合える毎日を」各フロアー・事務室に掲示し常に意識して業務にあたるよう促している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域行事(花壇の手入れ・運動会)等に利用者と参加していたが、コロナウイルス感染予防のため参加出来ていない。地域との交流は難しい状況ですが近所の方から花をいただいたりとか温かい支援を変わらず頂戴している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者はコロナウイルス感染予防にて外出自粛。職員も同理由にて外部の方との接触を控えているため、地域貢献は全く出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行わず書類の提出のみで対応。事業報告に加えて入居者様の活動の報告、行事の様子などを報告しています。職員とは取り組みについて意見交換を行いサービスの向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の担当と密に連絡を取り合うことはないが、必要に応じて連絡・相談し施設運営をサポートしていただくと同時に関係構築に努めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行い、身体拘束の意味を正しく理解し、直接的な拘束のみではなく言葉での拘束も行わないように意識の統一を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないように、言動や行動に対して全職員で注意しながら取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、左記について学習する研修会への参加は出来ていないです		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には後にご理解に相違が無いよう丁寧な説明をおこなうよう意識をしている。利用者及びご家族の不安や疑問点も解決出来るように話し合いを行います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置も現状は活用困難。ご家族からの意見収集は施設へ直接が大半。頂いた意見は迅速に対応するように努めている。ご家族からの意見を外部者に情報公開することは現状出来ていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務的な部分に関しては、定期的に会議の場を設け 職員が意見や提案を言える機会を設けているが、運営的な意見を聞く場というには特に定めていません。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に3回能力開発面談を行い、職員が理事長・管理者・社労士と個別で話す機会を設けている。職員が設定した目標に対し、目標達成に向けての方法を確認、やりがい(目標)をもって勤務できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に参加する際は勤務調整等のサポートを行っている。外部の多種におけるオンライン研修に参加する機会を設け、職員育成に務めている。研修参加への言葉かけも積極的におこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ加入し、同業者と交流する機会を作り、ネットワーク作りを進めサービスの向上に取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不安の訴えや、要望がある際は傾聴しています。内容に応じて利用者様の安心できる返答を行い、迅速に対応し信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族来訪した際、利用者の状況や、ホーム内でのイベントに参加された事など詳しく話、安心して頂ける様に努めています。ご家族から要望があれば、他職員にも伝え要望に沿うケアを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の残存能力の活用とご家族の経済的な負担等も考慮しつつ、最低限必要なサービスの見極めは行っている。利用者にご家族両方のご希望に柔軟に可能な限り対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者を介護される一方だけの立場にならないように、共に暮らす者同士の関係を築ける様努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者のご家族の絆を大切に本人とともにその絆を支えていける関係を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしていた馴染みの人や場所が本人と関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人一人が孤立しないように支え合える関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまでの関係を大切に必要に応じて本人と家族が相談しやすい環境づくりを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望を考慮し、出来る限り希望に沿った暮らしが出来るよう心掛けています。意思表示が困難の方の場合、ケアマネジャーや複数の職員で検討し、良い環境や生活が出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方や生活歴・環境やサービス利用の経過などを把握し、入居者様の今後の生活に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を把握するために、日常的な様子観察や個人記録、申し送りなどから情報を得るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様により良い生活を送っていただくために、他職種との連携を図り、ケアカンファレンスを実施して介護計画を作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子を個人記録へ残し、職員間で情報を共有して実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様とご家族のニーズに応じて柔軟な支援サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は自治会主催のイベントに参加していたが現在参加できなくなっています。そのため、地域のイベントに参加できない分ホームにて季節に合わせたレクリエーションを行い、楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際には協力病院の対応、関係について説明。また、他病院の受診は利用者ご家族の希望を取り入れつつ適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護師の巡回に加え、利用者の状態の変化を逐一、協力病院に報告・相談し、迅速かつ適切な対応ができるよう指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態を随時協力病院に報告することによって協力病院との関係作りに努めています。また、入院している利用者の状態確認を行い早期に退院できる状態であるか相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針は、入居時の重要事項で説明。重度化した場合は早い段階でご家族を交えて病状説明を行い、今後の方向性を検討している。事業所として出来る範囲の支援に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、協力病院に指示を仰ぎ迅速に対応している。緊急時の応急手当、初期対応の実践的な訓練は実施出来ていないが、知識を得るための勉強会はおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に消防署立ち合いの訓練を行い、非常時の対応についてのスキルを身に付けさせている。他にも、スプリンクラー・通報設備の点検や、燃えやすい物がないか施設周辺環境整備も不定期におこなっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性を尊重し、優しい言葉掛けを実施している。また、プライバシーの保護には十分に注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のご希望については時間をかけ傾聴し、言葉の意味をくみ取るよう努めている。ご本人が話しやすよう職員一人一人言葉かけを行い自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のご要望にすぐに対応することが難しい場合は後程時間を作り、その人のご希望に沿って対応している。コロナ禍の今、全てのご希望に対応すること困難。施設内でできることは極力ご希望に沿って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者がその日に着る洋服を選んでいたり、毎朝の整容、整髪を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存能力を見極め、その人にできる範囲で調理のお手伝いをお願いしている。感染症対策に留意して利用者で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分に水分補給できるように言葉掛け、介助行っている。また、入居者様が食事を取りやすいように栄養士や看護師に相談して、一人一人にあった食事を提供できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。また仕上げが必要な利用者は職員が介助を行っている。また定期的に歯科の訪問診療を受けてもらい、口腔内の清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄能力、排泄パターンを把握し適時、言葉掛けや誘導を行っています。出来る行為は利用者にしていただき、一連の動作が困難な方は介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や、ラジオ体操や利用者の体に負担にならない範囲で運動の参加を呼びかけを行っている。その他、排便が困難な方は病院との連携を取りながら下剤等の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	共同生活の場でもあり、利用者のご希望に必ずしも添えない部分はありますが可能な範囲でご希望の時間で入浴サービス対応に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならぬ様体調に合わせて休息をとっていただくよう努めている。また、季節や利用者の体調に合わせて空調の調整も心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬の説明書を読むよう周知している。内服薬、塗布薬ともに変更や追加があった場合には、利用者に異変がないか気を配り、少しでも気になる事があれば報告するよう周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を生かし、生活の中で役割が持てるよう支援している。希望される嗜好品は可能な限り提供しするよう努めている。また利用者にあったレクリエーション行い気分転換になるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は近隣への散歩等、気分転換のための外出を行っていたが、コロナ感染拡大にて感染防止を図るため、近隣への外出も自粛している。感染拡大終息後は以前同様に外出支援をおこなう。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はご家族管理としている。利用者が現金所持を希望される場合は、少額で対応させていただいている。金銭を所持されている利用者にはご希望に応じて外出時に買物の支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には事務所から電話をかけたり、手紙のやり取りなども支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日職員が掃除を行い、エアコンや加湿器などの空調設備を利用し居心地の良い空間づくりを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファで座ってテレビを見たり、みんなが集まってレクリエーションをしたり、居室でお昼寝したりとご自由に過ごせる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔使われていたものを持ちこんだり、好みの物を準備して居心地良く過ごせるよう居室の環境は工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は安全かつ移動しやすい造りになっており、利用者ができるだけ自立した生活を送れるようになっている。		